

令和6年11月1日

小野市議会議員 高坂純子様

小野市議会議員 前田光教

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣、「第86回全国都市問題会議」参加につき、
下記のとおり報告いたします。

記

1 開催期日

令和6年10月17日（木）～ 令和6年10月18日（金）

2 主催

全国市長会／公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所
公益財団法人日本都市センター／姫路市

3 協賛

公益財団法人全国市長会館

4 会場

〒670-0836 兵庫県姫路市神屋町143-2
「アクリエひめじ」（姫路市文化コンベンションセンター）

5 議題

健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

6 内容

[第1日目] 「基調講演」&「一般報告」

○今回の会議の目指す3つの論点

- ① これまでの健康づくりの政策はいかなるインパクトをもたらしてきたのか。
- ② 住民の健康づくりに対して自治体が果たすべき役割は何か。
- ③ 住民の健康づくり政策は今後どう展開されるべきか。

○これまでの健康づくり政策を振り返る

- ① 健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- ② 生活習慣病の発症予防・重症化予防
- ③ 社会生活機能の維持・向上
- ④ 健康のための資源へのアクセス改善と公平性の確保
- ⑤ 生活習慣の改善

～ 健康の増進に関する基本的な方向 ～

●基調講演 生命を捉えなおす ～動的平衡の視点から～

生物学者・青山学院大学教授 福岡伸一氏

ポストコロナの生命哲学として、**動的平衡論**について考察！

●主報告 市民のL I F Eを守り 支える姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長 清元秀泰氏

人生100年時代の到来（健康づくりの重要性）日本の平均寿命は？

1947年 男性50.06歳 女性53.96歳

2020年 男性81.56歳 女性87.71歳

約70年間で男女共に30歳以上延伸！

I C Tを活用した健康づくり・マイナンバーカードを活用した救急業務。

道路は単なる道だけではなく「歩く」「出かける」の仕掛けで1日1万歩で健康に！

都市計画では観光で健康を・・・。

●一般報告 ① 生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系教授 谷口守氏

都市計画の専門家が**都市を健全にダイエット**、都市は病気？ 都市の生活習慣病？

○循環不全 ○肥満 ○骨粗しょう症 ○がん・・・の例え話・・・。

「競争から協調へ」、補助金のカンフルを打って競争を促進するのではなく、
周囲と協調しながら**都市構造の体質改善**を図っていくことが健康まちづくり。

●一般報告 ② 都市そのものを健康にするまちづくり

千葉県流山市長 井崎義治氏

2007年 健康都市宣言 **流山市健康都市プログラム**を策定

環境価値・景観価値を高める「グリーンチェーン制度と認定制度」で**資産価値**を高める！

都市そのものを健康にするため、「全ての施策に健康視点」を基軸とした政策の立案と
推進を図り、市民の Well-Being を実現することが市民の健康と幸せに・・・。

●一般報告 ③ IT・AI の健康分野への適用例 ～健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

兵庫県立大学副学長 畑豊氏

AI による嚥下分析とその歌唱による誤嚥への挑戦

言語聴覚士が30秒間唾液を飲み込む様子（回数）を計測、この回数がRSST！

※RSSTとは

反復唾液嚥下テスト。患者さんの「嚥下時に喉頭（のど仏）が上にあがることを触診で観察し、30秒間に何回嚥下が行われるか診査し、3回以上できれば正常。簡単で安全性の高い方法で誤嚥スクリーニング検査や経過観察には良い方法。2回以下の場合には、嚥下障害の可能性あり。

ユーチューブ「さつきチャンネル」

リゾート感覚で不妊治療（沖縄県・空の森クリニック）の紹介

[第2日目] 「 パネルディスカッション 」

コーディネイター	宮本太郎氏	（中央大学法学部教授）
パネリスト①	三木崇弘氏	（高岡病院児童精神科医）
パネリスト②	奥村圭子氏	（NPO法人日本栄養パトネット理事長）
パネリスト③	今井敦氏	（長野県茅野市長）
パネリスト④	南出賢一氏	（大阪府泉大津市長）

●健康づくりによるまちづくりパネルディスカッションにあたって 中央大学法学部教授 宮本太郎氏

- 健康定義の変遷
枕詞のように、「少子高齢化」、地域が持続可能になるために「支える側」と「支えられる側」を区別することなく、老若男女問わず「元気人口」を増やす。
- 病気？健康？中間ゾーンの膨らみ
知能指数が70未満（条件）で知的障害と認定、70～80の知能指数の子どもが多くなったが公的な支援を受けられない状況・・・。
- 65歳はゴールではなくターニングポイント
- 教育から就労に移行時（人生のラッシュアワー時）メンタル面・生活習慣病が増加。

ライフサイクルを通してのケア「市民の一生に寄り添う都市政策」が必要！

薬の処方だけではなく「社会的処方」が必要！三重県名張市「まちの保健室」！

- 病院完結型から「地域完結型」への転換 — — 地域まるごと上院機能 —
自己肯定感を高めることで元気の源に！

●心理社会面から見た子どもの健康

高岡病院児童精神科医 三木崇弘氏

- 不健康な子どもたち「子どもの心の健康」
心理社会的な健康に目を向けると、「完璧主義」、「ネガティブな自己表現の苦手さ」があり何れも「問題を起こさない」という発想。
- まち・コミュニティ・ひと
我々の生活における「関係性」や「暮らし」は、「狭く深く」から「広く浅く」に変化し、人と人のつながりが、暮らしやすさ、ひいては健康に影響。
- コミュニティ（ソフトのソフト）を作るため、行政（ソフトのハード）
子育て支援が充実している自治体というイメージはひとつの安心感の提供。
イメージそのものが住民の安心感に影響。

●食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

NPO法人日本栄養パトネット理事長 奥村圭子氏

- 誰も取り残されない職の支援「栄養パトロール」
栄養パトロールの目的は「健康寿命を延伸」（医療依存度を高めない）
- 本人の夢や希望を支援するための栄養介入の実際
「この年で夢や希望？」高齢者の地震の夢や希望をゆっくり聞くことが大切！
個人の課題を自治体に提供し社会資源として（プライマリヘルスケア）

栄養パトロールは、各自治体の地域特性に応じた課題から生じた食環境を評価し、
個々の健康課題を見つける。
声なきSOSを察することができるシステムを目指す。

●未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

長野県茅野市長 今井敦氏

- 若者に選ばれるまち宣言の茅野市
第2次茅野地域創生総合戦略で宣言（令和2年）
- 国家戦略特区への挑戦
若者が魅力を感じ、付加価値の高い新たな産業と雇用の創出
スーパーシティ構想にエントリー
- 健康を軸にした未来塾「ゆい」の創造
「人の健康」＋「社会インフラの健康」＋「データの健康」＝「まちの健康」
- 幸せを実感できるまち
国家戦略特区の提案書に記す「人の健康がまたの健康」

挑戦なくして成功なし！

●「未病予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」のまちづくり

大阪府和泉大津市長 南出賢一氏

- 泉大津市の目指す姿（ビジョン）アビリティタウン構想
身体機能や能力、機能、才能、を「アビリティ」とし一人一人の身体機能が整い、能力、技能、才能が伸び、人やまちの免疫力を高めるまちづくり！
- 未病予防対策先進都市を目指し「泉大津市健康づくり推進条例」の制定
市民のヘルスリテラシー工場と健康づくりを推進していく気運の醸成を実現！
健康状態の見える化「健康力向上プロジェクト」
食育の推進「医食同源」「身土不二」

「官民連携」「市民共創」で市民のQOC（生活の質）・幸福度の向上と、
未来の指針となる取組を育む！

5 総括

健康づくりとまちづくり、今ひとつ結びついて想像できない状況のまま参加させて頂きましたが、結果として理解ができてきているのかどうか判定できず、不安な状況のままではありますが、想いのままに総括として所感を記します。

まず、表現は各発言者の実際とは異なりますが、記憶の中で要約すると、下記の6点が記憶されており、自己理解の基、納得し、学びとなりました。

- ① 道路の整備も健康増進、歩きたくなる道路環境づくり・・・
- ② 景観等々から不快な気持ちにならないまちづくり・・・
- ③ ストレスを感じないまちづくり・・・
- ④ 歌唱と誤嚥を軽減・・・
- ⑤ 心理社会での子どもの健康・・・
- ⑥ 食育、栄養パトロール・・・

都市計画と健康増進を一緒に考える機会は、これまでに体験する機会は少なく、インフラとしての道路、福祉等からの健康、幸福感からの健康等、区別して考え、加えてストレス等は単にメンタルの影響ばかりを考え、改めての気づきの場であったように思います。

道路は利便説だけではなく「健康づくりの道」として位置づけることができ、意識付けすることで歩くことを実践し、健康増進、健康寿命を延伸できる考えに納得します。

また、景観ですが、危険空き家、雑木林、耕作放棄田を見ていると不快感や不安感、危険な状態を連想し、ストレス感が積もります。きれいな街並み、田畑や道路わきの草が短く刈られているのを見ると、きれいと思える心目が幸福感や、安心感を芽生えさせるようにも想

像できました。

これら内容は2日間の感想で、この学びを活かすにはまずは自分自身で意識していくことで、インフラとの関連性については、今後、小野市でも図書館東側の都市計画がありますが、単に利便性の開発だけでなく、心目に映える健康まちづくりを意識してみたいものです。

Hitorigoto ↓

20数年前に、河合北部（快適の森）からきすみの地区へ、歩道を繋ぐ云々と耳にした記憶がありますが、それら構想は自然の中で健康を増進し、まちへの愛着づくり構想であったと回想します。その後、中止に・・・？

健康な景観形成を築く条例・・・？ 健康優良道路の認定・・・。 健康自治会・・・。

結びとして、全国各地の事例も紹介頂きましたが、20m歩き激怒といった事例もあり、其々市民の意識改革があってこそその「健康」であると実感しています。